

《特別寄稿》

塔ノ岳における近代登山のあけぼの

神奈川県屋根といわれる丹沢山地のほぼ中央に位置して、標高では蛭ヶ岳などに及ばないが、古くから人気を集める塔ノ岳（1491m）に近代登山として最初に登ったのは誰だったか。『日本登山史年表』（山と溪谷社）によれば、1905（明治 38）年 9 月、武田久吉、高野鷹蔵、河田黙のほか 9 名と案内人 1 人が玄倉から塔ノ岳へ登り、松田へ下った山行が「丹沢における最初の登山記録だろう」と記述している。日本山岳会創立の僅か 20 日前の山行であり、武田、高野、河田は創立時発起人 7 人の中に名を連ねる 3 人である。この計画を立てた高野は、翌 1906 年に発行された『山岳』第 1 年第 1 号において「塔ヶ嶽」という、自身のスケッチ 4 葉を挿入した 21 ページにわたる詳細な紀行文を発表した。同行した武田は、この記事が丹沢を世の中に普及させた最初のきっかけと述べている（『明治の山旅』）。この山行は、日本山岳会の母体となった日本博物学同志会横浜支部として実施し、メンバーのそれぞれが岩石・蝶・植物の採集や撮影をもくろんで、ハンマー・採集網・胴乱・写真機などを携行した。前日山北駅から出発し、当時の不正確な地形図をもとに迷いながら皆瀬から大野山の東をからんで玄倉へ下り一泊。翌日玄倉の案内人を伴い、山神峠を経て諸士平という地点に下って玄倉川を遡行し、その上流にあるユースンから帯杉沢に入り、西尾根に取り付いて当時存在した孫仏岩のある塔ノ岳へ登った。夜のとばりに包まれた大倉尾根を下り、ようやく松田の町に着いたのは翌朝 3 時だったという。まだ小田急が開通する前の時代である。それにしても当時の人の健脚には感心させられる。

さて、その時のひとり武田が自分達より早く塔ノ岳に登った登山家がいたことをのちに知

る。それが岡野金次郎だった。岡野は盟友小島鳥水の没後、「小島と私—初期の登山とウェストンとの交友のことなど—」を発表した（『山岳』第 44 年第 1 号）。これは岡野が三男の満に口述筆記させたものだが、岡野が 18 歳のとき（1892 年）駒鳥を捕る人を案内人として塔ノ岳へ登頂し、自分にとって初登山だったと述懐している。おそらく大倉尾根から登ったと思われる。これが近代登山における塔ノ岳の最初の記録であり、武田・高野らが玄倉から登ったときより 13 年も前のことだった。その 3 年後にも岡野は小島を誘って塔ノ岳に登り、小島はその時の印象が忘れられず、後年岡野へ送ったハガキにそのことを書いている。（砂田定夫）

↓三ノ塔から望む表尾根と塔ノ岳（中央）



山行委員会・ユース委員会開催される

神奈川支部の基本方針を話し合う

5 月 19 日に支部としての山行計画を検討する山行委員会・YOUTH 委員会合同会議が開催された。役員のみならず数名の支部会員の参加も得て、今後の支部山行のあり方について話し合いが行われた。

総会では役員が交代で月 1 回の山行計画を策定していくこととなっていたため、参加者が

らは山行計画に関する要望が多数提案された。

神奈川支部としては、役員のみが山行を計画し、実施していくということではなく、支部会員全員が企画に参加し支部を盛り上げてもらいたいと考えている。ただし、今年度は役員間の相互理解を深めることもあって役員で対応すると決めた経緯があった。支部会員の中には、山行計画に協力の意思を持っている方もいると思われ、今後積極的な関与をお願いしたい。神奈川支部においては、俗にいう「連れていってもらおう山行」という姿勢にならないよう支部会員の皆様をお願いしたい次第である。山行委員会は隔月に実施されるので、支部会員の積極的な参加を呼び掛けたい。なお、参加に当たっては事前に参加する旨を井村山行委員長へメール等で連絡していただくをお願いしたい。(P4参照)

一方、神奈川支部の特色である YOUTH については、支部内での YOUTH 希望者がどの程度いるか、把握ができておらず、YOUTH の支部内での位置づけ、参加資格等について明確な線を出せなかった。今後の役員会等で、YOUTH の位置づけについて、本部 YOUTH との関係も含めて整理していく必要があると思う。

第2回支部山行報告 三ノ塔

第2回支部山行は神奈川岳人のホームグラウンドである丹沢をはずす訳にはいかない。場所の選定は丹沢で最初に歩くことの多い表尾根三の塔とし、ポピュラーなルートでは飽き足りない支部会員も想定し、ちょっとひねったヨモギ尾根とした。

秦野駅に総勢24名が集合、タクシーで諸戸のボスコキャンプ場まで入る。ヨモギ尾根取り付き(標高約600m)には標識があるものの、すぐにブルドーザによる掘削中の作業道が登山道を潰してしまっている。ブルドーザの跡に従って上に登って行く。ブルドーザの作業道が終わると、尾根に沿った山道となる。よく踏まれていて歩きやすい。いったん傾斜が緩むところで休憩。新緑が美しい。植林から雑木の自然林になるとヨモギ平は近い。ヨモギ平は明るい広々とした良い雰囲気のところ。歓声があがる。三の塔へは尾根沿いに登る。白ヤシオが咲いているが、多くはすでに散っていた。違った角度からの見る表尾根が新鮮。作業用モノレールが

現れると表尾根は近い。賑やかな三の塔山頂で東丹沢の景色を眺めながら昼食。下山は三の塔尾根を下る。牛首で林道を下るグループと山道を下るグループに分かれるたが、林道の方が早かった。大倉バス停の行列に並び渋滞に出て、解散帰途についた。(長島泰博)

↓第2回支部山行ヨモギ平にて



(コースタイム) 秦野駅 8:30 集合 8:35 出発 - 9:15 諸戸 - 9:30 ボスコキャンプ場 - 10:45 ヨモギ平 - 12:10/12:55 三の塔 - 14:25 牛首 - 15:40 大倉 - 16:05 渋沢着

(参加者) 石村実、田中弘、込田伸夫、石村日満子、高橋あかね、鶴田泰子、西田進、小松忍、大槻利行、日出平洋太郎、大字進、永井泰樹、長島泰博、植木貞一郎、酒井俊太、寺井素子、多田友行、田島剛、廣島孝子、出江眞弓、平林力松、内田

(支部会員以外) 今村正子、門馬栄菜

第3回支部山行報告 鎌倉アルプス

第3回支部山行は鎌倉アルプスを縦走した。6月中旬、鎌倉は花の時期で北鎌倉駅は多くの観光客であふれていた。13名が集合、観光客とは逆方向に線路沿いを歩き住宅街の急な坂を上り六国見山の登山口に来る。ここから笹に囲まれた登山道を進み六国見山頂上到着。梅雨前の晴れ日と言うことで、山頂から江ノ島、丹沢、緑の森がきれいな鎌倉山まで一望できる。ここから木に覆われた細かいアップダウンのある山道を進み、一気に明月谷に降りた。谷を暫く進み、鎌倉アルプスの急な登りを開始。建長寺の裏山は半僧坊と呼ばれ展望台から下の伽藍が一望できた。大平山、天台山とピークを踏みメインルートから滑川源流の沢筋に入る。少ない踏み後を注意深く歩き、丸太の一本橋で対岸に渡り水流の少ないところを渡渉し川沿いのブッシュを進む。この川筋で我々の後に一般

登山者が勝手についてきて道迷いとなる可能性があったため、このブッシュ先の十二所まで案内した。報国時（竹の寺）から鎌倉巡礼道を踏み衣張山を右に見て名越切通しに到着。山道もここまで、あとは鎌倉街道を鎌倉駅に向かい16：30到着。（早川正志）

↓第3回支部山行鎌倉大平山にて



（コースタイム）北鎌倉駅9：45集合 10：00出発－10：30 六国見山－10：45 明月谷－11：00 半僧坊－12：00/12：45 今泉台公園（昼食）－13：00 大平山－ 14：00 天台山、十二所－15：00 鎌倉巡礼道－ 16：00 名越切通し・まんだら堂跡－16：30 鎌倉駅着

（参加者）野田憲一郎、田中弘士、石村日満子、都留義之、鶴田泰子、廣島孝子、西田 進（ACL）、小松 忍、早川正志（CL）、秋山典彦、酒井俊太、多田友行、青木まゆみ

支部山行に参加して

朝から晴天に恵まれ、紫陽花のハイシーズンで混雑を心配しましたが、北鎌倉から出発後は人混みを感じることなく快適なコースでした。鎌倉のコースを良くご存知の早川リーダーを先頭に、天園コースの一部以外は全て初めての道のりでした。途中コースが途切れて住宅街が現れる都度、綺麗な紫陽花に遭遇し癒されました。建長寺裏の半僧坊からの眺め、知らなければ通り過ぎてしまうような鎌倉段葛のスッと通った直線の眺めなど、ただ歩いているだけでは分からない風景にも出会え新鮮でした。

一番印象的だったのは、ハイキングコースから脇道に入り自然のままの原生林を思わせる道のりです。こんな所が鎌倉にあるの？と驚きの風景に囲まれて、保水力たっぷりの緑豊かな一帯は、滑川の源流まで目の前にすることができ、貴重な経験となりました。

報国寺裏からの巡礼道も、静かでゆったりしていましたし、大町側に降りましたら、ぐるり鎌倉の外側を周ってきたんだと実感しました。長めのコースでしたが、充実感のある楽しい1日となりました。

幹事の早川さん、色々準備していただきありがとうございました。

また一緒しました皆さま、お疲れさまでした。また一緒させていただける日を楽しみにしております。

（青木まゆみ）

われら神奈川支部

支部会員リレー紹介

100名を越える方の参加をもって神奈川支部は発足しました。支部会員の中には、以前より山の世界で活躍してきた方から最近初めた方まで様々な方がおられます。支部会員の中には以前から知り合いの方もおり、そのネットワークを元にリレー式に投稿いただくコーナーを作りました。

僕の丹沢放浪記

田島剛

西丹沢には森林軌道があり、昭和38年まで伐採したブナや炭を運搬する世附森林鉄道がありました。大又沢線「浅瀬―地蔵平(7.2km)」と水ノ木線「浅瀬―菰釣橋(7.9km)」と法行沢支線(1.2km)です。この軌道を探索する目的で林道に入ったのが僕の山行きの始まりでした。学生時代オリエンテーリングをしていたので、地図読みやコンパスの使い方はバッチリです(独り善がり)。浅瀬から林道をブラブラ歩いて地蔵平まで来ました。でも軌道の遺構を発見することはできませんでした。地形図を見ると地蔵平から二本杉峠まで廃道(三ヶ瀬道)がありました。細川橋(バス停)への近道なので無防にも進むことにしました。これが失敗でした。沢は崩れ、橋は朽ち、進めません。泣く泣く元来た道に戻り地蔵平に着きました。辺りは暗くなりかけています。山の怖さを実感しました。それと読図が出来ると慢心していた自分を怨めしく思いました。

この失敗談を「ようこそ山へ」というHPへ投稿したのがきっかけで、かれこれ10年以上、丹沢山域に嵌まってしまいました。当時バリエ

ーションルートがはやっていて、地図に登山道が載っていない尾根や沢に行くことが先端だったかもしれません。その手のHPで人気なのが、「俺の山紀行」「マシラの部屋」「花立小僧の丹沢山行記」でした。

※次回投稿は丹沢のエキスパートの永井さんです。

役員会報告

日時 6月16日 19時～21時

場所 神奈川工科大学横浜事務所

報告事項

- ・設立総会後の会員異動の報告。入会者が3名、退会者が2名
- ・支部報 (No.1) の発行
- ・第2回支部山行について
- ・山行委員会・YOUTH委員会合同会議
- ・東京多摩支部から奥多摩BCの宿泊体験ツアー (7/2・3) の案内あり。

審議事項

- ・第3回支部山行実施案
- ・7月以降の支部山行
- ・YOUTH委員会の活動について提案
- ・山行計画・報告書式および連絡フォロー
- ・支部報 No.2の内容
- ・山行中の飲酒⇒原則として禁酒とした

今後の予定

支部山行について

月1回の山行を予定していたが、委員会の体制作りを急務とし、回数を減らしても内容を充実させることとした。したがって7月、8月の支部山行は現在予定していません。

東京多摩支部・埼玉支部合同山行

日時：10月29日(土)～30日(日)

場所：奥多摩御岳

詳細は支部報3号にて

静岡支部合同山行

日時：11月19日(土)～20日(日)

場所：箱根

詳細は支部報3号にて

支部山行申し込み方法

支部山行申し込みにあたっては、以下の情報を担当者にお伝えください。

参加者氏名、フリガナ、性別、会員番号

E-Mail、住所、電話番号(及びFAXあれば)、携帯番号、生年月日、山岳保険加入有無、登山中の緊急連絡先氏名、都道府県、住所、続柄、電話番号。

あらかじめひな形のエクセルに記入しておき、申し込みの都度メール添付していただくと好都合。

7月の山行・YOUTH委員会

7月21日(木) 19時～

神奈川工科大学横浜事務所(横浜駅東口ウィズスポーツビル10F(旧日産横浜ビル))

※カモシカスポーツの入っているビルです。

参加される場合は、以下に連絡の上、参加してください。

山行委員会：井村 090-5822-9539

imurahide@yahoo.co.jp

8月の役員会

8月16日(木) 19時～

神奈川工科大学横浜事務所

あとがき

丹沢登山の歴史を知ることも神奈川岳人にとっては有意義なことと思ひ砂田さんに特別寄稿いただきました。機会をみて続編の投稿にも期待したいところです。

今回第1号として田島剛さんをお願いしました。田島さんと私は同じ小学校、同じ中学校に通い実家も数軒隣という関係。ただし山の世界ではまったく接点がなく、神奈川支部の創立総会で再会しました。リレー投稿では支部会員の皆様の紹介をしていきたいと考えています。ご協力を。(泰)

公益社団法人日本山岳会神奈川支部 支部報第2号

発行：日本山岳会神奈川支部 支部長：込田伸夫

編集者：植木貞一郎、多田友行、長島泰博

平成28年7月1日

毎年 3月6月9月12月の上旬に発行予定